

社会
福祉課

住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる地域に

東城地域で移動販売車運行開始

2月18日、運行開始に先立ち、東城支所で「庄原市東城地域移動販売車運行開始出発式」を行いました。出発式には、車両のデザインの一部を担った、地元

社会福祉課障害者福祉係
☎0824・73・1210
東城支所市民生活室
☎08477・2・5131

市は、区域面積が广大で、外
出や買い物に苦勞する東城地域
で、移動販売車「東城元気便」
の運行を始めました。この移動
販売車は、運行を株式会社トー
エイに委託し、高齢者などに買
い物の機会を提供するとともに
に、サロンやデイホームなどの
交流の場を充実させることを目
的に、東城地域の高齢者などが
集うサロンやデイホームなどの
会場を訪問します。（買い物は
サロンなどの参加者以外の方も
できます。）

その他地域の行事や集会など
が行われる会場も希望などに応
じて訪問しますので、希望する
場合は社会福祉課または東城
支所市民生活室にご連絡くださ
い。（ご希望に添えないこともあ
ります。）運行は、原則平日の
10時～16時です。（状況に応じ
て土・日・祝日にも運行します。）

問い合わせ

の東城高校書道ガールズの皆さ
んも参加しました。式典の中で、
木山耕三市長は「移動販売車は
高齢者の皆さんが集う会場を中
心に巡回することとしており、
この事業を契機に集いの輪が広
がり、高齢者の皆さんが買い物
やご近所の皆さんとの会話を楽
しみながら、元気に暮らす地域
であり続けることを強く願って
います」と述べました。



出発式であいさつをする木山市長

出発式後、最初の訪問地であ
る、東城町内堀の小奴可自治振
興センターに移動販売車が到着
すると、集まった地域住民は、
日用品や生鮮食品などを買いた
めていました。地域に住む長谷
久美さんは、「近所の商店がな
くなり、月1回の東城への通院
に合わせて買い物をしてきた。
今後は移動販売車が地域に来て
くれて助かる」とうれしそうに
話していました。

いちばん
づくり課

空の産業革命！「ドローン」に期待を乗せて

庄原グローバル・ドローンイノベーション協議会設立

同時、会員募
集を行っていま
すので、事務局
（いちばんづく
り課 ☎0824
・73・1278）
へお問い合わせ
ください。



ドローン協議会の様子

2月22日、庄原市ふれあいセンター
で「庄原グローバル・ドローンイノベー
ション協議会」の設立総会を開催しま
した。
発足メンバーは、市他、これから
ドローン技術を活用したいと考えてい
る、市内を中心とした商工団体、森林
組合、農業団体など8団体です。
本市では、平成28年度から国の地方
創生加速化交付金を活用した「ドロー
ン活用推進事業」により、これまでに
操縦者育成や農業散布ライセンス取得
者の確保などに取り組み、市内でのド
ローン事業者の起業などを含め、一定
の効果も生まれました。
今後、さらにドローン技術を活用し
た市内産業の発展を目指すため、この
協議会で活発な情報交換・意見交換を
行い、農業・林業・建設・防災・教育
など広い分野での事業提案、実証実験
などを通じて市内での事業化へ結びつ
けようとするものです。
この協議会の設立で、ドローン技術
が持つ可能性が本市に広がっていくこ
とを期待してい
ます。

建設課

災害復旧の測量設計に多大な貢献

平成30年7月豪雨災害の支援事業者に感謝状贈呈



矢吹有司事業担当副市長と和田品夫会長

2月5日、市は、
一般社団法人島根県
測量設計業協会に、
感謝状を贈呈しまし
た。
同協会は、平成30
年7月豪雨に際し
て、緊急を要する被
災地の測量設計を実
施するため、会員と
の調整を行いました。
これにより、国
の補助を受けるため
の災害査定も期間内
に完了することがで
きました。
今後、1日も早い
復旧を目指し、災害
復旧計画に沿って工
事を発注していきま
す。



ドローン技術に期待する

庄原市ドローン活用推進セミナー・3/17

No.2

かんぼの郷庄原で「庄原市ドローン活用推進セミナー」が開催され、約80人が参加しました。

主催者の「庄原グローバル・ドローンイノベーション協議会」は、ドローンの積極的な利活用と、ドローン技術を活用した市内産業の発展と起業につなげる活動を行うため、2月22日に設立された組織です。

今回のセミナーでは、リモートセンシングサービスについての講演や、7組の団体による「ドローンの操縦技術を学べるスクールや練習場の開設」「ドローンによる米の生育調査や除草剤散布」「森林の現場管理に活用している市内での取り組み」などの活用事例の発表が行われました。



▲ドローン活用についての講演や事例発表が行われた

一年間の成果を披露！

第6回東城自治振興区まつりステージ発表会・3/2

No.1

庄原市東城文化ホールで、東城自治振興区まつりステージ発表会が開催され500人が集まりました。

このイベントは東城自治振興区の生涯学習教室として活動している団体を中心に、1年間の成果発表などを目的に開催されています。

当日は21団体が次々に踊りや唄、楽器の演奏、体操や空手の実演などのパフォーマンスを行いました。また、会場内では茶道教室のお茶席や、うどん、おこわなどのバザーもあり、来場者はステージの合間に食事を楽しみました。同自治振興区会長の金丸和夫さんは「今後も多くの団体に参加してもらい活気ある地域にしていきたい」と話していました。



▲ステージでは詐欺防止啓発の寸劇も披露された

地域の助け合いと防災の意識を

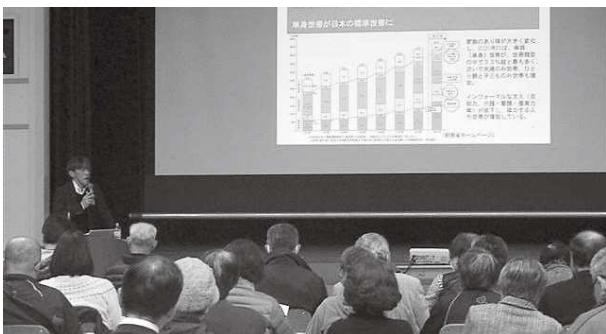
福祉講演会・2/27

No.4

比和自治振興センターで、福祉講演会が開催されました。この講演会は、地域住民の福祉向上や、高齢者の健康促進のために活動する「比和きずな会」が、一人暮らしの高齢者の急増などを踏まえ、多発する災害への対策などについて意識を深めてもらうことを目的に企画されました。

当日は、全国で地域福祉や災害支援などに関する活動を行うローカリズム・ラボの井岡仁志さんが「日常の助け合いと防災を考える」と題して講演しました。

終了後、参加者は「いざ災害などが発生すると、地域内でのつながりや助け合いが大切。これからは、もっと横のつながりを意識していきたい」と話していました。



▲地域の助け合いやつながりが大切だということを学んだ

活動発表から地域の支え合いに

くちわのつどい・3/2

No.3

口和自治振興センターで、口和自治振興区、庄原市社会福祉協議会などが主催する、第10回くちわのつどいが開催され、約100人が参加しました。

つどいが始まると、口和中学校の生徒会執行部の皆さんが、地域のお年寄りのお宅を訪問し、本の読み語りなどを行うボランティア活動についての発表を行ったほか、永田ふれあい自治会が「世代間交流」について、向泉自治会が「自主防災組織の活動」について発表しました。

発表後、雲南市の中野の里づくり委員会集落支援員の石飛真知予さんが「“やってみる”からつながった地域の輪」と題して講演したほか、地元団体のバザーもあり、来場者は充実した1日を過ごしました。



▲活動発表や講演などで住民は地域のつながりを深めた